

科目名	政治・経済 Politics and Economics			担当教員	山岡健次郎		
学 年	3 年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	11G03_20030	単位区別	履修
学習目標	政治経済に関する固定的な知識を学ぶのではなく、揺れ動く状況を読み解く眼を養っていく。 とりわけグローバル化の進行する現代社会にあっては、既存の認識枠組みはもはや有効性を失いつつある。 国家単位の発想をいかに乗り越えるのか、という視点が問題の核をなす。						
進め方	前期は政治に関する認識を深めていき、後期は経済事象を理解する力を養っていく。 授業は、配布されるプリントを中心に進めていく。 さらに、できるだけ時事的な事象を取り上げ、メディアの読み解き方を紹介していく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 授業の目的（1） 2. 政治とは何か（2） 3. 民主政治の歩み（2） 4. 人権思想の拡がり（3） 5. 新しい人権（1） 6. 政治的思考の特質（2） 7. 政治的リアリズム（3） ----- [前期中間試験]（1）			政治という人間活動の特徴を原理的に理解する。 A2:1 民主化の流れと人権確立の相互関係を知り、それが必ずしも直線的な歴史過程ではないことを理解する。 A3:3 政治的判断の特色と困難について学ぶ。 A1:3			
	8. 試験問題の解答（1） 9. 政党とはなにか（2） 10. 政党とデモクラシー（2） 11. 国家とはなにか（2） 12. ナショナリズムについて（2） 13. 日本のナショナリズム（2） 14. メディアと政治（2） 15. 戦争と平和（2） ----- 前期末試験			政治的システムと社会との関係性を理解する。 民主主義における政党の役割について再考する。 国家という政治的枠組みを問い直す。 ナショナリズムの両義性を理解する。 A1:3 メディア・リテラシーを養う。 A2:2, A3:2			
	16. 試験問題の解答（1） 17. グローバリゼーションという視座（2） 18. 多国籍企業という戦略（2） 19. 資本主義経済システム（2） 20. 労働力の商品化（2） 21. 労働者と近代家族（2） 22. 資本主義のあらたな「外部」（2） 23. 越境する人々（2） ----- [後期中間試験]（1）			グローバル化する経済の動きを考察する。 企業の多国籍化という現象を理解する。 A1:2 資本の蓄積過程を把握し、労働力商品化のプロセスを論理的に説明できる。 A3:1 資本がグローバル化する過程を動態的に捉える。 A3:1			
	24. 試験問題の解答（1） 25. グローバルな労働力市場の成立（2） 26. 政治と経済の相克（2） 27. 会社とはなにか（2） 28. 日本型会社経営と日本のサラリーマン（3） 29. まとめ（1） ----- 後期末試験			労働力の越境化という現象を理解する。 A1:3 株式会社の仕組みを知る。 会社のかたちと労働のかたちの関連性について学ぶ。 A1:1			
	試験問題の解答（1）						
評価方法	4回の定期試験の平均点で評価						
履修要件	特になし						
関連科目	地理（1年）→歴史（2年）、倫理・社会（2年）→法学（5年）						
教 材	教科書：「高等学校 改訂版 新政治・経済」						
備 考	特になし						